

まちビジョン作成の全体像について

まちビジョンとは

- 地区の住民、地区内で活動する団体等が集まり、地区でやりたいこと、やり続けたいことなどを整理しながら、実現したい将来のまちの姿としてとりまとめたもの

- ※まちの魅力向上を前提とした将来像とする。
- ※街づくりプロジェクトを後押しするツールとなる。



まちビジョン作成のねらい

地区の住民や活動団体同士のつながりづくりができる場を設定し、ここでお互いの活動内容を情報交換するとともに、今後地区でやりたいこと、目指したいことについても考えてもらいまちビジョンを作成する。そうしたプロセスを通じて団体同士や地区とのつながりづくりを促進させ、地区の街づくり活動がさらに活性化していくことを目指す。

まちビジョンの区域設定の考え方

まちビジョンは（仮称）都市づくりのマスタープラン（地区別パート編）に位置付けられることを踏まえ、まちビジョン同士の区域が重ならないことを原則として町内会・自治会の区域を基本としながら設定する。

場合によっては、以下のようなことも想定される。

- ・地区全体で理念的なまちビジョンを作成しつつ、そのまちビジョン内容を踏襲したものとして、その区域中の一部地区で詳細なまちビジョンを作成することも想定される。（地区の実情等を踏まえ地元と相談しながら柔軟に設定することとする。）

【団体ヒアリングより】

- ・区域は、地域により柔軟性を持たせてもよいのではないか。地域によりやりやすい単位があると思う。
- ・常に同じ単位のエリアで話し合うのではなく、目的に応じて区域や検討組織を変えていくのがよい。

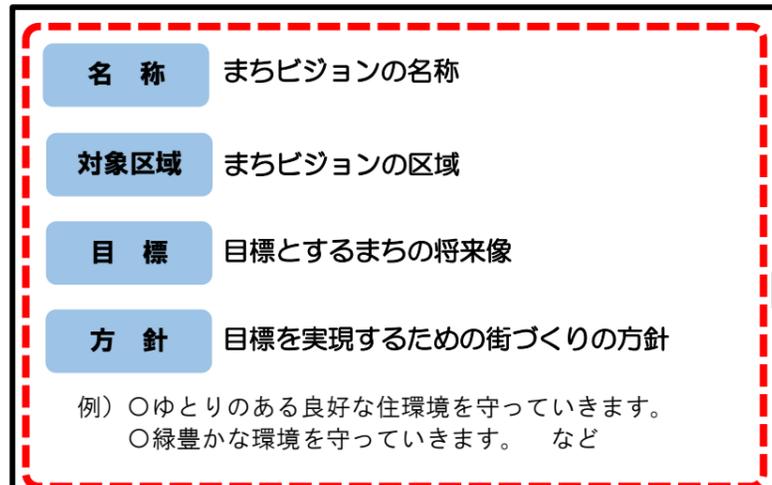
作成するまちビジョン（テンプレート）のイメージ

- ・市民がまちビジョン作成に取り組みやすくするために、まちビジョンのテンプレートを用意し、短期間かつ少ない負担感で作成できるようにするが、下記のテンプレート項目を基本としつつ、地区ごとに柔軟に作成できることとする。

- ・まちビジョンは、地区の住民、地区内で活動する団体等と市が協働で作成する。
- ・まちビジョンの一部を切り出したものは、『（仮称）都市づくりのマスタープラン』に位置付けられる。

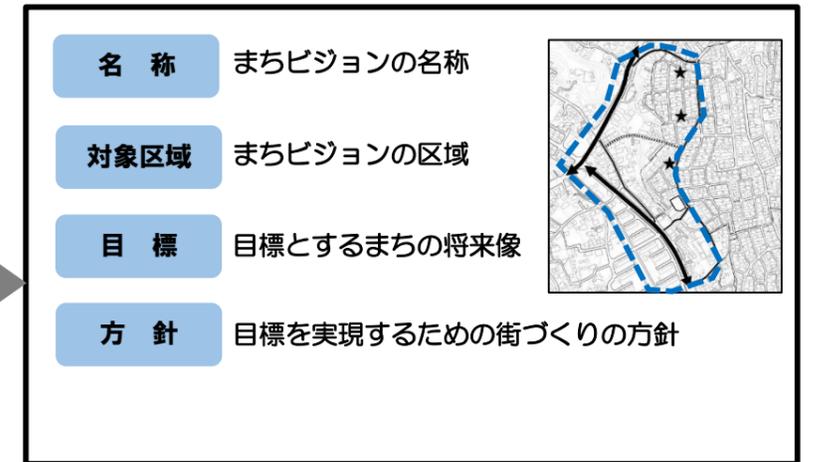
「まちビジョン」

地区の住民や活動団体等と市で話し合いながら、地域の将来像としてとりまとめ



（仮称）都市づくりのマスタープランに位置付けられる部分

「まちビジョン」のうち「名称」「目標」「対象区域」「方針」を切り出したもの



まちビジョンの一部（赤枠部分）を切り出す

取組みたい具体的な内容

地区でやりたい活動、やり続けたい活動を記載

例) ①空き家を住民で管理して子どもや高齢者の居場所をつくっていききたい。
②地域の憩いの場となる公園の活用を住民でルールを作って運用していきたい。



まちビジョンの検証・見直しの考え

まちビジョンの内容を検証・見直しするタイミング等の考え方について記載

例) 目標、方針は10年後、取組みたい具体的な内容は5年後

『（仮称）都市づくりのマスタープラン』へ位置づけ

市ホームページで公開

【団体ヒアリングより】

- ・まちビジョンは、地区全体の方針がありつつも、取組みたい具体的な内容については、プロジェクト単位で作成する方がよさそう。

まちビジョンの要件

- ・市民が主体的に行うまちづくりという観点で作成されていること
- ・地区の魅力向上を前提とした内容であること
- ・地形・土地利用の特徴や、コミュニティの単位・活動団体の活動エリア等を踏まえた区域設定であること
- ・内容が基本構想や都市づくりのマスタープラン等の計画に整合していること
- ・まちビジョン作成について適宜周知や説明会などを行い、地区内でおおむねの理解を得ていること

市ホームページで公開

【団体ヒアリングより】

- ・まちビジョンと都市マスタープランの改定サイクルの関係性はどうなるのか。

まちビジョンの作成プロセス

- まちビジョンは地区の住民や地区内で活動する団体等と市が協働で作成する。
- つながりづくりの場への参加を呼びかけ、まちビジョンを作成し、それを（仮称）都市づくりのマスタープランに位置付けるまでの標準の作成プロセスを下記に示す。

【団体ヒアリングより】 まちビジョン作成メンバーについて

- 地区協議会などの既存のコミュニティ団体ではなく、主体的に活動できるメンバーを自分達で集めて構成したい。
- 町内会・自治会の区域で検討するのは良いが、検討メンバーの中心が町内会・自治会になることは検討が必要。
- まちビジョン検討の声がけは地区協議会などの既存の組織を活用すべき。これまでない組織を立ち上げることはしたくない。
- 地区住民だけでなく、民間企業や大学なども巻き込み、多くの人が参加できることが望ましい。

